



世界にとび込む — グローバル人材って何だろう —

学長特別補佐 **三村 信男**



国際的に活躍する人とはどんなイメージだろうか。最近よくグローバル人材について報道されますが、じつは茨城大学でも国際人を目指すコースやプログラムが増えています。

例をお話しましょう。数年前から、大学院サステイナビリティ学教育プログラムの中で国際実践演習という科目が始まりました。これは、茨城大学とタイのラチャパット大学の学生が1週間、プーケット付近の村に民宿して調査研究を行うものです。学生達は、4つの混成チームに分かれて、水田復活やウミガメの保護、津波からの避難などについて調査し、議論します。参加した学生は、これまで知らなかった問題にぶつかり、もてる語学能力をフルに使ってタイの学生と意見をたたかわせ、最後には、英語とタイ語で大きなポスターを作って村人に報告するところまで行きました。今年で5回目になりますが、茨城大学の学生が持ち込んだ考え方、例えば、

家庭ゴミの分別や津波からの避難の心得が村人の家に張り出され、浸透し始めるという効果も生まれています。

こうした例を見ると、国際的に活躍するとは外交交渉などだけではないと感じます。アジア諸国の経済成長が、環境と共生し持続可能なものになるには、沢山の問題を解決しなければなりません。日本がこれらの国々の本当のパートナーになるには、多くの人達と力を合わせて課題を解決する人間が必要であり、国際的に活躍するとはそういう人のことです。また、仕事や勉強のために海外から多くの人が日本に來ています。国内でも、こうした人達と共に働くことが必要で、そうした内なる国際化を担う人も国際的に活躍する人材なのです。茨城大学では、問題の現場にとび込み課題解決力を磨くような勉強の機会をもっと広げたいと考えています。



混成チームで議論する茨城大学とタイの学生
(タイ・プーケットのマイカウ村)

ローザ・プルムラ 第47号

大学教育センター ニュースレター
平成25年度 10月発行



このニュースレターのタイトルはラテン語で「Rosa Plumula」。「薔薇の若芽」を意味します。茨城大学の校章はノイバラ (Rosa Multiflora)。春から初夏にかけてすくすく成長するノイバラの若枝の勢いを、本学に入学された1年次諸君に期待して命名しました。(2002年4月、谷口晋・初代大学教育研究開発センター長)

もくじ

巻頭言「世界にとび込む — グローバル人材って何だろう —」	1
平成24年度推奨授業表彰	2
平成24年度推奨授業の紹介	3
ユニークな授業を紹介します!	4 ~ 5
学生懇談会開催レポート	6
副センター長だより「大学生の『聞く力』」	7
先輩からひとこと「後学期を迎えるにあたって」	8



平成24年度 推奨授業表彰

推奨授業表彰制度は、各年度終了後、教養科目の中から推奨授業を選定し、担当教員を表彰することによって、授業の質的向上を図ることを目的に、平成13年度に制定されました。

推奨授業は、専任教員が担当するすべての正課授業を対象とし、「推奨授業推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」などから教育上の多大な努力や優秀な教育技術等を総合的に評価し、各専門部会委員長の推薦により大学教育センター基礎教育運営委員会で選定されます。平成24年度推奨授業には次の2つの授業が選定されました。



平成24年度推奨授業表彰式（平成25年7月11日、於：学長室）
左から、佐藤和夫・大学教育センター長、黒田久雄先生、池田幸雄学長、大橋朗先生、勝本真・大学教育センター副センター長

化学 「化学実験基礎」

森 聖治 先生（理学部）
島崎 優一 先生（理学部）
大橋 朗 先生（理学部）
高妻 孝光 先生（理工学研究科）
神子島 博隆 先生（機器分析センター）

受講学生からのコメント

「化学・化学実験基礎」を受講して

工学部2年 園部 量崇

入学して最初に履修する実験の授業が「化学・化学実験基礎」でした。有機化学・無機化学・分析化学・生化学などの実験を通して化学反応を観察し、実験レポートにまとめるという一連の過程を初めて体験しました。実験の度に課題として出される問題や実験結果をまとめ、それを考察するために必要な書籍や文献を調べながら、期日内にレポートを作成することを繰り返しながらレポートの書き方を学べたことも有意義でした。

私の学科では専門科目として化学の実験がありますが、その前に化学実験における基礎知識を得ることができ、専門科目を学ぶ上でも大変役立ちました。一方、専門で化学の実験がない学部学科の方々にとっても、この授業は実際に「化学の不思議」を体験できる数少ない教養科目の一つです。

環境・政策系科目 「農業と環境」

黒田 久雄 先生（農学部）

受講学生からのコメント

この講義でああなたの農業の見解は変わる！

農学部3年 寺田 勝也

近年の日本の人口は減少傾向にありますが、それでも世界全体での人口は増加の傾向にあります。2011年10月31日に人口は70億人を越しており、これから人口は増え続けていくものと思われます。また一説では2050年には100億人を越すのではないかと予想されているほどです。そのため、この講義ではいつか訪れる「人口100億人目の人間が誕生する日」に備え、全ての人口を養えるだけの食糧を供給することができる社会作りを目標にしています。

まず、みなさんは農業に対してどのようなイメージを持っているのでしょうか。「なんとなく地味なもの」とか「食糧生産の基盤となり、欠かせないもの」、「自然と一体化していて素晴らしいもの」など、人の数だけ答えはあることでしょう。それは大いに結構なことでありまして、もちろんこれらの答えに不正解や正解はありません。また、自分が持っているイメージを自覚しておくことはとても重要なことです。もしかしら受講前と受講後でイメージが変わっているかもしれません。

さらに、この講義は農業と、近年問題となっている地球環境問題の関わりもプラスして、スケールの大きい内容となっています。みなさんもぜひ受講してみてください。



平成24年度 推奨授業の紹介

自然系基礎教育専門部会より

化学「化学実験基礎」

森 聖治先生(理学部)、島崎 優一先生(理学部)、
大橋 朗先生(理学部)、高妻 孝光先生(理工学研究科)、
神子島 博隆 先生(機器分析センター)



授業概要

基礎的な実験と説明講義を通して、自然現象、特に化学現象への理解を深め、現代科学技術の基礎となる自然の仕組みを理解するとともに、化学実験の基礎を学ぶ。

推奨授業を受賞して

高等学校で化学を学んできたが実験を習得していない理学部以外の初年次生に対して開講する科目です。実験を通してはじめて化学的に自然を深く理解することができます。一方、化学薬品の取り扱いや誤差の処理など知らなければならないことが多くハードトレーニングを要します。実験の機会の少ない初年次生には効果があったのだと思います。5名の教員だけでなく、ティーチングアシスタント(TA)の惜しみない協力によってこの実験が成り立っています。TAの皆さんとともに受賞したと理解しております。さらに、一昨年度までのパイロット授業の時代にご協力いただいた各学部の教員ならびにTA諸氏に感謝いたします。(森 聖治)

総合基礎教育専門部会より

環境・政策系科目「農業と環境」

黒田 久雄 先生(農学部)

授業概要

農業は環境によって規定されるとともに、農業の展開によって環境に影響を及ぼす。その影響の現れ方は地域の自然条件、社会条件によって異なったものとなる。授業では、農業と環境の関係に関する基本的な科学的事項、農業が生み出す環境問題、諸外国と我が国での農業と環境の問題を解説する。

推奨授業を受賞して

この度は大学教員にとって大変名誉な賞を頂きまして、誠にありがとうございました。農業と環境の問題は今日的な課題ばかりでなく、未来の人類のことも考えた対策が必要です。この講義では、未来を見据えた農業と環境問題について対話型学習を心がけながら行いました。今回受賞できたのも学生達の講義の理解と積極的な参加があつてのことです。講義を熱心に受けてくれた学生達に感謝します。(黒田 久雄)



ユニークな授業を紹介しま

人文

北関東の 武士(もののふ)たち

担当教員：高橋 修 先生

常陸国の武士たちのドラマを知る

教育学部2年 中山 佳紀

幅広い視点をもった授業が多い教養教育の中で、「北関東の武士たち」という授業は、北関東の武士について深く掘り下げた講義が展開されていて、特に常陸国の武士について取り上げていき、地元を知るきっかけとなるような授業内容となっています。茨城県に住んでいる以上、避けて通ることはできない平将門を始めとして、平将門の乱を平定した藤原秀郷・平貞盛など、中学・高校の歴史の教科書には3行ほどしか記述のない武士について深く取り上げ、教科書で語られてこなかった歴史の陰を明かしていく、また有名な出来事の裏で茨城県でも歴史は動いていたことに気付かされる、日本史が好きな人には是非とっていただきたい授業です。

授業は、深く掘り下げるといっても基本的なことや簡単なことから知識を押さえていくので、あまり日本史は得意ではないと思っている人、そもそも日本史はあまり…予備知識もないし…といった人にもオススメできる授業です。皆さんも北関東に住む者として、北関東の武士について詳しくなってみませんか？



将門を祀る国王神社（坂東市）

社会

都市の歴史的景観

担当教員：小野寺 淳 先生

あなたの出身地の秘密を探ろう！

人文学部2年 齋藤りぼん

皆さんは、自分が生まれ育った町のことをどのくらい知っていますか？ 知っているようで、意外と知らないことも多いのではないのでしょうか。この授業は、人文地理学の研究手法を援用し、都市の歴史的景観や都市が抱える諸問題などについて考察します。そして、履修者それぞれの出身地について、各自が研究を行い、プレゼンを通して課題の共有化を図ります。

私は福島県いわき市出身です。現在、福島県は「八重の桜」が一大ブームとなっています。かの会津若松の地には観光客の客足が絶えず、震災以前の状況に戻りつつありますが、いわき市はまだまだ復興途上と言えます。しかし、市内各所では再生と復興に向けた町おこしがいたる所で行われており、私は自分のプレゼンの作成を通じ、そのパワーをより身近に感じることができました。

地域の町おこしに興味のある人・自分の出身地についてもっと詳しく研究したい人にはうってつけの授業なので、ぜひお勧めします。



自分の出身地に関する調査研究を行い、プレゼンします

す!

教養科目には、茨城大学ならではのユニークな授業がたくさんあります。今回はその中から人文・社会・自然・総合それぞれの分野より1つずつ選び、受講した学生さんに紹介してもらいました。

自然

宇宙観測実習

担当教員：
米倉 覚則 先生／吉田 龍生 先生

宇宙に近づく一步

理学部1年 三浦 智佳

口径32mの電波望遠鏡を自分で操作してみたいとは思いませんか？この授業では、高萩市・日立市にある電波望遠鏡を使った測定や観測を通して、電波天文学の基礎を学ぶことができます。また、光学望遠鏡を使った観測も行うことができます。

電波望遠鏡を使った観測では、グループごとに観測の計画を立てて指示書を作成し、観測結果から解析を行います。思うような観測結果が得られず、苦労した部分もありましたが、なぜそのような結果になったのか考察し、自分たちなりの結論を出していく過程は、悩んだ分、とてもいい経験になりました。そして光学的な観測では、「HR図」という教科書でよく見かける図を、実際に作成します。教科書を読んで得ただけの知識と、実際に経験して得た知識とは、身に付き方が大きく違いました。

この授業に参加することで、より実践的な知識を学ぶことができます。天文学や星に興味がある人は、宇宙に近づくための一步としてこの授業を受けてみてはいかがでしょうか。



宇宙科学教育研究センターの電波望遠鏡

総合

茨城大学の 学問を楽しもう

担当教員：池田 幸雄 学長 ほか

茨城大学で学ぶ

人文学部2年 坂場 静佳

「茨城大学の授業を楽しもう」の授業は講堂で行われ、私たちの大学の授業のなかで一番規模が大きく、毎回異なる講師の先生が講義をしてくださいます。一回一回の授業の内容が変わるのが特徴です。授業の内容は、文系から理系まで幅が広く、普段の生活にかかわる内容のものから、歴史、都市計画、化学製品、倫理などさまざまです。

自分の専門以外の授業をとるのは難しそう…と敬遠してしまうかもしれませんが、毎回毎回新しい発見や驚きがたくさんあるはずです。私自身も、いままで難しかったと思っていた化学をより自分の身近に感じることができました。

いまでも関心がなかった分野の授業を受け、実際に自分で考えてみるということは新鮮で、新しいことを考えるきっかけを与えてくれるというのがこの授業のいちばんの魅力です。きっと皆さんの心に残る授業が受けられることと思います。



学生に質問する池田幸雄学長

学 生 懇 談 会

7/17

を開催しました

今年は先輩も参加して意見交換

大学教育センターでは平成25年7月17日、学生懇談会を開催しました。これは、学生から率直な意見を集め、学習環境の改善と更なる充実を図るため、学部・大学院ともに初年次生を対象に学習支援と生活支援、学資支援に関する情報交換及び意見交換を行うものです。この懇談会は平成24年度に引き続き2回目の実施となります。前回の学生懇談会において「先輩の話を聞きたい」という意見があったことから、今回は各学部・研究科1年次生の他に2年次以上の学生にも参加してもらい、総勢21名の学生が参加しました。

事前に300人以上の学生を対象に設定テーマに沿ったアンケートを実施し、その結果をふまえて懇談会において実際に学生の意見を聞きました。

TOEIC導入でモチベーションUP?!

懇談会では「初年次からより多く専門科目を学びたい」という意見があり、併せて教養科目から専門科目への接続を意識したカリキュラム作りを要望するなど、教養教育の在り方について学生から発言がありました。また、大学で設定している学習相談体制については、「英語の論文指導をしてほしい」「周知が十分に

行われていないのではないか」といった率直な意見も。他にも「TOEICなどの外部検定試験が授業の成績評価に導入されれば受講するモチベーションを維持できるのでは」「予習・復習のポイントが具体的に示されていないため授業外の学修時間が少ないことに繋がっているのでは」といった多くの提言や意見が積極的に発言されました。

先輩の経験談にはおトク情報満載★

懇談会後に実施された情報交換会において、本学在学時に日本学生支援機構の認定を受け奨学金の返還免除の対象となった職員による経験談などが紹介され、参加学生は熱心に耳を傾けていました。

懇談会の全体統括を担当した勝本真・副センター長は、「皆さんからの要望をもとに、学生の視点に立った教育の見直しや大学設備の充実等を検討する契機としたい」と締めくくり、懇談会は盛況のうちに終了しました。

次回は12月に開催する予定です。参加希望や興味のある学生は教養教育係（共通教育棟1号館1階）にお問い合わせください。学生の皆さんの参加を歓迎します。

自由に使える
学習室を増やして
ほしい

初年次から
より多く専門科目
を学びたい

プレゼンの仕方
を教わりたい!

レポートの書き方を
初年次からしっかり
教えてほしい

生協の
営業時間を
長くしてほしい

「理容質問室」は
理容学部生のための
相談室だと思ってた!

文系の皆さんも
どんどん利用してね

ラウンジを
増やしてほしい

外部検定の
受験費用を大学が
負担してほしい

個人用ロッカー
がほしい

大学生の「聞く力」

大学教育センター副センター長／企画実施部長 戸嶋 浩明

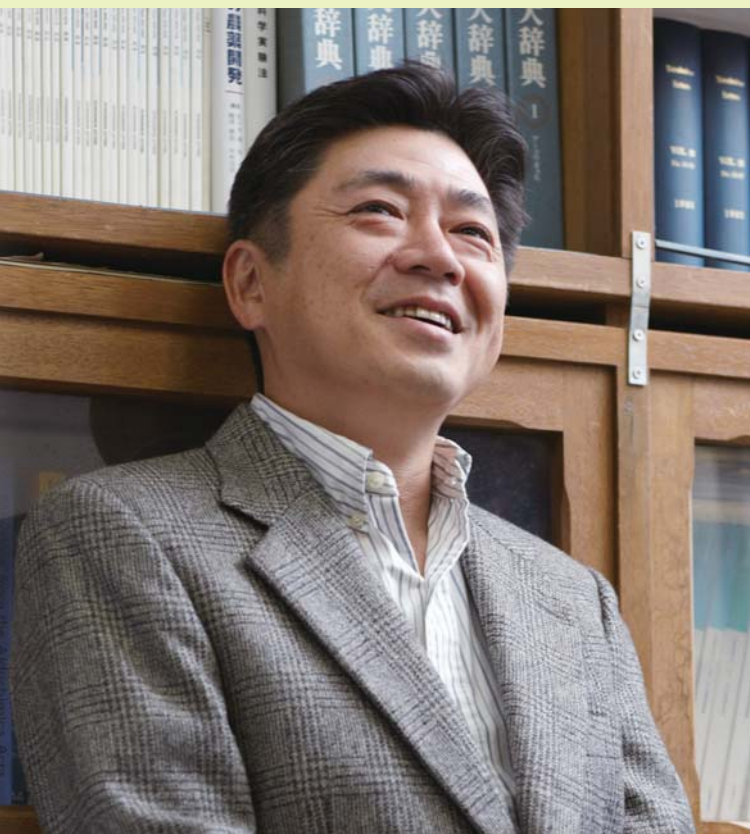
「聞く力」が危うい？と感じる学生さんが年々増加しているように感じています。「聞く＝理解する」ということについて、私が経験している事例を二つ紹介します。

一つめは教養科目（数百人のクラス）でレポートの書き方と提出方法を説明した時、どのぐらいの学生が正確に聞く（＝理解する）かです。レポートはごく日常的に卒業するまであるはずで、今後のためにもとの思いで「表紙を付けて、表紙に必要事項を書き、ホチキスで綴じる等々」ごく当たり前のことですが詳細に説明したつもりです。そしていざレ

ポートが提出されてくると、表紙が無い、氏名や学生番号が無い、指定字数が足りない、クリップの使用や針無し（さらにひどいものは角を折り曲げただけ）、その他何かしらのエラーがあるレポートを合計すると10％程度はあります。当然、次のレポート提出に向けて再度の説明で周知徹底します。しかし、エラーはまだ5％程度あります。再々度でも2～1％、ゼロ％にはなりません。

二つめは専門科目（50人程度のクラス）で小テストの問題に対して補足説明（結果的に解答の大ヒント）をした時、どのぐらいの学生が正確に聞く（＝理解する）かです。問題文を読めば普通に回答できるはずなのですが、見回っているとトンチンカンな回答をしている学生が30～20％程度いることがあります。そんな時に補足説明をするのですが、採点をしてみると補足説明が全く理解できていないオリジナルティーあふれる答案が20～10％程度はあります。この中の一部は勉強をしていないため、この対象分野で使われている専門用語が理解できていないことも一因ではあります。

実は1つめの事例も、授業で初めて聞くだけの内容ではなく事前情報として教養科目履修案内に書いてあるので、それも読んでいますね？読んでくださいねと付け加えて対象授業に固有な部分を付け加えて説明（もちろん必要資料の配布あり）しているので二つめの事例と同じようなことです。自分に必要な情報は何か当事者意識を持って聞くことが重要なのではないのでしょうか？後期開始に向けて自分の「聞く力」について振り返ってみてください。



後学期を迎えるにあたって

先輩から
ひとこと

農学部2年 野中 玲奈

長いようで短い夏休みも終わり、後学期が始まります。農・工学部生にとって水戸で過ごすことのできる時間はあとわずかです。学年が上がると、それぞれのキャンパスに移ると、他学部の友達となかなか会えなくなってしまうので、今のうちにたくさん思い出を作りましょう。

後学期を過ごすにあたって大事なことは、「単位を落とさないこと」です。特に、水戸でのみ開講される科目は、1年のうちにしっかり取っておきましょう。

学年が上がると専門科目を履修すると、本格的な勉強が始まります。1年次とのギャップに驚くことのないように、今のうちにノート・メモの取り方を練習しておくといいかもしれません。

阿見キャンパスは水戸と比べて学生数が少なく、水戸での生活に慣れてしまったみなさんの中にはいろいろ不安に思っている人もいるかもしれません。しかし、心配しなくても大丈夫です。阿見には阿見なりの楽しさがあります。

後学期はあっという間に終わってしまいます。やり残すことのないように、毎日楽しく過ごしてください。

工学部4年 富田 健太郎

工学部生は2年生になると水戸キャンパスから日立キャンパスに移ります。日立キャンパスは自然も多く、水戸キャンパスより静かで落ち着いた雰囲気、また最近建物の改修工事が行われたので、綺麗な場所で快適に勉強ができる環境が整っていると思います。2年生以降になると専門科目が大部分を占めるようになります。難しい科目もあるかもしれませんが、魅力的な科目も多くあります。また、水戸での単位はしっかり取っておくことをおすすめします。日立から水戸に通うのは大変です。日立での授業にも支障が出てきてしまいます。

短い期間ではありますが、水戸で過ごす1年を存分に楽しんでください。日立に来ると他学部との交流は少なくなります。水戸キャンパスにいらっしゃるサークルなどの課外活動を通していろいろな人と会ってください。また、やってみたいことがあったらぜひ積極的に挑戦してみてください。その出会いや経験はきっと将来役に立つことと思います。

工学部キャンパス▶



編集後記

秋は、落ち着いて勉強に取り組める季節。しっかりがんばりましょう。睡眠・食事にも気をつけて、体力を落とさないように！（お）

あっという間に後学期は終わってしまいます。千里の道も一歩から。毎日大切に、目標を持って過ごしてください。（の）

春秋に富む皆さんは、今年どのような秋を過ごすのでしょうか。後で振り返り、千秋晩成と思えるようなことを始めたいものです。（と）

発行日◆平成25年10月 / 発行者◆茨城大学 大学教育センター 茨城県水戸市文京二丁目1-1 ☎029-228-8414